※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	和楽器演習	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の音楽２」　（教育芸術社）						
副教材等	宮城道雄小曲集など						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

西洋音楽を中心に勉強する音楽科において和楽器を学習することは音楽に対する視野を広げより深く音楽文化について知ることができます。
２年次では１年次で取り組んでいない箏または三味線の基礎的な奏法についても、学びます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】和楽器（箏または三絃）の奏法、楽譜の読み方を習得し楽曲を演奏できるようにする。めやすとして、２年次においては定期演奏会で演奏披露できる力をつける。
【思考力・判断力・表現力等】どうすれば良い音色が出るのか、和楽器らしい奏法ができるのかを工夫し表現できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】奏法の習得、技術の向上に対して積極的に取り組むとともに自らの専攻する西洋楽器の表現にも生かそうとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・和楽器に関する基礎的な知識について理解している。【知識】 ・和楽器に関する基礎的な演奏ができる技能を身に付けようとしている。【技能】	和楽器の楽曲について、どのように演奏すれば良い音色が出るのか、和楽器らしい奏法ができるのか工夫している。また和楽器らしい表現ができるように工夫している。	和楽器の奏法の習得、技術の向上に対して積極的に取り組もうとしている。 和楽器の学習を自らの専攻する西洋楽器の表現に生かそうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	宮城道雄小曲集・定期演奏会での演目	様々な奏法の習得 定期演奏会に向けた発表準備	a:【知】和楽器に関する様々な奏法に知識を持ち理解している。 【技】和楽器に関する基本的な奏法を習得し演奏表現に生かすことができている。 b:和楽器に関する知識や技能を総合的に働かせ、日本の伝統的な音楽の表現内容を解釈したり日本の伝統的な音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図をもっている。 c:学習内容に関心を持ち、演奏に生かそうとしている。 また、自らの専攻する西洋楽器の表現に生かそうとしている。	実技試験	実技試験 振り返りシート	振り返りシート 観察
後期	創作	和楽器を使った楽曲の創作	a:【知】創作に関する基本的な知識を持ち理解している。 【技】基本的な奏法を利用し創作に生かすことができている。 b:和楽器を使った楽曲の創作に取り組むことで、日本の伝統的な音楽の表現内容を解釈したり日本の伝統的な音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図をもっている。 c:学習内容に関心を持ち、音楽活動全般に生かそうとしている。 また、自らの専攻する西洋楽器の表現に生かそうとしている。	実技試験	実技試験 振り返りシート	振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度